

# 地域トピックス

## ◆歴史文化の縁を大切に(遠野町)

遠野町地域づくり連絡協議会(菊池儀一会長)の会員20人は10月1日、八戸市大館地区で開催された「新田城まつり」に参加し、根城南部氏を縁とする交流を深めました。

約380年前、八戸から国替えとなった根城南部氏の遠野への出立の模様を再現した「出立行列」に、八戸市民らおよそ300人に混じり、同協議会会員も衣装を身に付け参加。3キロの道のりを練り歩き、沿道に集まった大勢の観客から盛んな声援が送られていました。



八戸市民らとともに沿道を練り歩く会員

## ◆収穫の秋を楽しむ(土淵町)

「ジャンボカボチャ村まつり」は10月9日、栃内コミュニティセンターで開催され、地区内外から200人が参加しました。この催しは、地区住民の親睦や地域の活性化を目的に土淵町第2区で開催しているもので、今年で7回目。

まつりには150個のジャンボカボチャと40個のジャンボひょうたんが展覧され、重さや形の良さなどを競い合いました。重さを当てるクイズも行われ、参加者は大きなカボチャを囲んで和やかな秋のひとときを楽しみました。



会場に所狭しと並べられたジャンボカボチャ



除伐作業に取り組む森林愛護少年団の児童

## ◆みんなで守る身近な里山

宮守町の砥森市有林除間伐体験は十月二十二日、同市有林内のアカマツ林で行われ、森林愛護少年団や地区住民など五十四人が参加しました。

参加者は、迷岡自治振興会の菊池昇会長らの説明を受けた後、それぞれのごきりを手に、木が良く育つようにと除間伐作業に汗を流しました。

里山美林事業は、手入れが行き届いていない人工林が増加していることから、住民や森林ボランティアと協力して里山を再生させようと取り組んでいるものです。十一月十一日には附馬牛小学校「ぞみの森」で行う予定です。



好き嫌いなく何でも食べ、歌や踊りが大好きなイチさん

## ◆100歳、ますますお元気に

十月十五日、百歳の誕生日を迎えた佐々木イチさんに市からお祝いの記念品が贈られました。

この日は入所しているみやもり荘で誕生会が行われ、本田敏秋市長が訪れて、職員や家族が見守る中、記念品の黒二ツ引タンスと花束を手渡しました。このあと、職員による余興も披露され、半天姿で踊る職員の姿に拍手をしながら見入っていました。

イチさんは、明治三十九年、宮守町生まれ。農業の傍ら二人の子どもを育ててきました。顔を洗った後、必ずタオルをひぎの上に掛けて朝食に行くのが日課で、家族の訪問を楽しみに過ごしています。

## ◆秋の恵みが満載

第三十二回市産業まつりは、十月十四、十五の両日、運動公園で開催されました。二日間とも好天に恵まれ、特産品を買い求める多くの市民らでにぎわいました。

綾織中ブラスバンド部の演奏でまつりが開幕。キノコやヤマブドウ、取れたての新鮮野菜などの特産品を出店する市内外の四十七の団体や企業が軒を連ねました。

会場は目当ての品を買い求める人たちが行列ができ、多くの来場者が秋の味覚を堪能しました。

ステージでは、丸太の早切り競争や土淵保育園の子ども太鼓など多彩な催しが繰り広げられ、多くの家族連れらが楽しみました。



出品されたワサビの出来栄えに目を凝らす来場者

# まちの話題



南京玉すだれで会場をにぎわせた八郎湯大道芸倶楽部の皆さん

## ◆実りの秋を満喫

二〇〇六躍進みやもり祭は十月七、八日、みやもりホールを中心に開催されました。初日は雨天となったものの、二日目は大勢の人たちが会場を訪れ、実りの秋を満喫しました。

ホール内では町民芸術祭が行われ、踊りや詩吟の発表のほか、手芸や絵画などの作品も展示。秋の草花の押し花や折り紙を使って仕上げた小学生の力作に感心しながら見入っていました。

ホール前の特設会場ではわさびや農産物、郷土料理も販売。福祉バザーでは、宮守中学校の生徒たちも参加して、大きな声を出しながら販売に協力していました。



日ごろのうっぷんを晴らすように大きな声をはりあげた大声大会

## スポット

森の名手・  
名人百人に認定  
石田孝夫さん(70歳)



石田孝夫さん(上郷町)は、社団法人国土緑化推進機構から「平成18年度森の名手・名人100人」に認定されました。これは、森や山にかかわる仕事に従事し、優れた技を極め、他の技能者らの模範となる人を毎年100人顕彰しているものです。

石田さんは、大峰鉱山跡地に群生する白樺林を活用した地域活性化を目指し、白樺樹液の採取・加工技術の研究を重ねてきました。また、毎年上郷小学校3、4年生を対象に、白樺樹液の採取体験を指導し、地域資源の魅力を伝えていきます。石田さんは「活用できる地域の自然の恵みを、これからも子どもたちに伝えていきたい」と話していました。